

圓覺寺 護持會會報

天珠

平成30年 新春号



平成30年
第7号



新年明けましておめでとうございます。
檀信徒の皆様におかれましては良き初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は、和敬会（地元7ヶ寺）の花まつり当番に始まり、寺内の事ですが、徒弟宗寛の結婚式等があり、総代さん始め関係者の方には大変お世話になつた一年であります。檀信徒各位にも、旧年中は寺門護持にひとかたならぬご尽力賜り誠に有り難うございました。

昨今の日本の宗教事情はまさに激変の真っ只中という感じがします。十年ほど前から、お葬式も行わず病院から火葬場へ直行する「直葬」という言葉が出てきて驚かされたのでしたが、昨年くらいからは、火葬した後のお骨を捨てに来ないという「〇（空）葬」という言葉が生まれ、那

過去を振り返り 今を見つめること



住職 成田大航

会ではお骨もいらないお墓も作らないとい
うケースが増えているそうです。

激変する時代だからこそ、過去を振り返り、今を見つめることが大事なのではないかと思います。大きな話になりますが、日本にとって幸いであつたことは、なんと言つても仏教が伝來した最初の時期に、時の聖徳太子が仏教を深く理解されて国作りは国土の安寧を祈る国家仏教でありました。が、平安の時代には、末法思想の中で、貴族や一部の裕福な者が父母の菩提を弔う為に寺を建てる事で救いを求めた時代がありました。そして、鎌倉時代になって、やつと今日の十三宗五十六派と言われる民衆の仏教が生まれるという過程を経てきました。

徳川二六五年にわたる江戸の安定した時代では、円覚寺のような檀家寺が全ての村に建てられて、村役場の仕事から日常的な祭事にいたるまでの中心的な役割を近世まで果たしてきました。今日私たちが行う行事や作法は、少なくとも四、五百年の長い積み重ねや取舍累代を経て出来上がつてき

たものであります。ひとつひとつに意味があり、先人が大事に引き継いできたものばかりです。それが、このわずか数十年の間に音を立てて崩れかかってきていると言つ憂うべき現状があります。



前回昭和39年の東京オリンピック
聖火リレーが福知山を通過した
時の写真（芦田利一様撮影）

新年明けましておめでとうございます。

平成三十年の新年を迎えた檀家様各位におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、円覚寺護持会の運営には大変なご理解、ご支援、協力を賜っていますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、護持会の行持やお寺さんの慶事が重なりアツと言う間に過ぎた一年であります。まず、四月二十九日は八年ぶりに和敬会主催の花まつりが当番寺として円覚寺で開催されました。当初お稚児さんがなかなか集まらず、住職はじめ役員一同必死になつて努力した結果、四十数名の稚児さんたちに参加してもらうこととなりました。午前中の素晴らしい天気にも恵まれ稚児行列に続き、本堂での法要も滞りなく執り行われました。アトラクションとしてラジオで活躍の、落語家の笑福亭晃瓶師匠やプロのマジックなどを楽しんだ後、出席頂いた和敬会各寺院の住職をはじめ関係者の方々に、簡単なお食事をしていただき、円覚寺の役員女性が作つたおいしいお味噌汁を食べてもらひながら無事花まつりを終える事

謹賀新年

代表総代 伊 東 高 志

が出来ました。また、この花まつりに合わせて前年より進めてきました本堂のトイレ改修が完成しまして、当日はもとより今後の人寄り時には大いに役立つものと思っております。

七月六日は住職の徒弟の宗寛さんと茉莉奈さんの結婚式が円覚寺本堂の仏前にて、大本山永平寺前副院院（かんにん）丸子孝法老師の式師により執り行われました。午後からロイヤルホテルで結婚披露宴が行われ、不肖私ども夫婦の媒酌により、隨喜寺院の各住職をはじめ、新郎の雲水時代の多くの仲間や新婦の友人の方々に祝つていただけました。また、九月末にはお子さん（女の子）が誕生し菩提寺円覚寺の次代を担う家族として期待と繁栄を檀家一同心よりお祈りしたいと思います。

また、住職の長女の麻伊佳さんも結婚され新しい生活を始められ、お寺さんにとっては二重の喜ばしい出来事となりました。

墓地関係では、新規の入檀や墓地購入を希望される檀家さんもあり、無縁墓地の早期改修の必要性に迫られ、二か所の無縁墓



宗寛さんと茉莉奈さんの結婚式（7月6日）



今年も色々と忙しい一年になると思いますが、檀信徒皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますと共に、ご健勝とご多幸を祈念し年頭のご挨拶とさせていただきます。

地の整備とそれに伴う無縁墓石の集積場の改修整備を土師観音横にいたしました。今後無縁墓地の改修も檀家さんの希望に応じた改修を進めたいと思つております。

今年も色々と忙しい一年になると思いますが、檀信徒皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますと共に、ご健勝とご多幸を祈念し年頭のご挨拶とさせていただきます。



各寺院総代・自治会長様・ご詠歌講・お稚児さんと保護者の方が紅白の紐を引きながら、白像に乗ったお駕遊様の誕生仏を会場・円覚寺まで行列して歩きます。



行列が山門から到着。すぐに本堂にて灌仏法要（お駕遊様ご生誕を祝う法要）が行われます。



ご詠歌の奉詠・読経と共に、お稚児さん・参加者一同が灌仏（花御堂に祭られた小さなお駕遊様に甘茶をかけます）



KBS 京都ラジオパーソナリティの美福亭晃瓶さんの落語とピックリツカサさんのマジックで大いに盛り上げて頂きました。



後は恒例の餃撒き。各寺総代様・来賓並びにご詠歌の皆様で中食のご供養の後お開きとなりました。

和敬会 花まつり



昨年よりご案内の「和敬会花まつり」が、八年ぶりに当円覚寺にて開催されました。四十四名のお稚児さんによる稚児行列・円覚寺本堂での灌仏法要・落語やマジックのアトラクション・餃撒きと二〇〇名を越える

ご参加を頂き、賑やかに開催出来ました。役員様始め土師保育園様、自治会の皆様には大変お世話になりました。お礼申し上げます。



裏山土砂崩れからの一連の工事が全て完了致しました。



本堂裏 東司(手洗い)工事について

本堂裏に隣接した旧来の手洗いが、使用出来ない状態でしたが、藤岡設計様並びに大下工務店に工事をお願いして、花まりまでに完成致しました。

仏具寄進のご報告



お盆供養に施主様を呼びかけさせて頂き、予定数を超えるお申し出を頂き、一人用

机が24脚・背もたれ付きアルミ椅子を37脚揃える事が出来ました。会議や来客用も全てテーブルと椅子で対応出来るようになりました。

茲にお施主名（到着順）を記し感謝申し上げます。

- 芦田輝彦様（5口） □ 芦田高人様
- 高橋ちゑ子様 □ 廣氏謙二様
- 芦田照男様 □ 芦田照代様 □ 吉良ゑみ子様 □ 小前美佐子様 □ 佐藤敦様
- 佐藤友治様 □ 芦田昌浩様 □ 芦田充也様 □ 芦田昌裕様 □ 芦田耕一様
- 伊東重人様（3名1口） □ 芦田健司様
- 芦田瑞枝様 □ 芦田彰宏様 □ 芦田健様 □ 高橋正様 □ 仲井きみ代様



H29.10.17 西本願寺・京都国立博物館の旅

□ 曲録再調寄進



法要で尊師が座る曲録が大分傷んでおりましたが、芦田久雄様・芦田ひさ様（故人）の施主名にて、芦田家供養として塗り直し、金具等の再調をさせて頂きました。

平素は、墓地管理にご支援・ご協力を頂きましてありがとうございます。

唐突ですが、土師墓地の中に白い看板が立っているのをご存知の方は、どの位いらっしゃいますでしょうか。この様なお尋ねをする私自身、今の役をお受けするまでは墓地の事に全く関心もなく当然知りませんでした。

この看板が立っている処が、縁故者の方がいらっしゃらない荒れた「無縁墓地」であります。墓地内に十五ヶ所ありました。

そして、改革の進め方について住職に指導を仰いだところ、

○無縁墓地は、縁故の方が居られないのでは承諾なしで墓石等を処分する事は出来ない。従って、墓石・遺骨の安置場（三界萬靈塔）を造り永久に管理しなければならない。

○設置場所は、土師觀音の北側で永代供養墓地に隣接した無縁墓地二筆の広い場所が最適。

との提案を受けました。

改革を進める上で、墓石・遺骨の安置場が必要であり早急に工事を実施する事に決まりました。

無縁墓地の改葬について



本年新年度に入つて早々に、無縁墓地の場所が良いので永代使用契約を希望される方が二件ありました。近年は、引墓をされなく無く平成二十六年四月以降、法的措置も済み土師墓地管理会の管理地となり改葬が可能と成りました。

先の総代の方が、墓地の環境整備を推進する為に平成二十五年三月十一日「無縁墳墓等改葬公告」を官報号外四十八号に公告し、四月二十四日工事着手を決定しました。

天候にも恵まれ工事は順調に進み、予定より早く七月三日完成致しました。尚、改葬工事後ただちに二件の永代使用契約を結び、現在では既に新しい墓地が出来上がっております。写真通り立派な安置場（三界萬靈塔）が出来ましたので、是非一度ご覧頂きたく思います。

あと十ヶ所の無縁墓地につきましては、年次計画をたて改葬を進めて参ります。また、少しでも便利にお参りがし易いよう土師觀音の近辺に水道の増設を検討しております。

墓地の環境整備につきまして、ご意見・ご要望をお聞かせ頂きましたら、今後の参考とさせて頂きます。引き続きよろしくお願ひ申しあげます。



墓地の環境整備担当 芦田 忠義

おかなければと思い始めたのが、數年前でした。

それは、生家の祖母が私に託した仏様の事です。子どもの頃、土師の地へお世話になつてからずっと胸の奥深くしまつていて、今年は今年こそはと思つても、なかなか実行に移せずにいましたが、心を決めたら、さて、何から何をどうしたら良いのかも分からず、和尚様にお伺いして色々ご親切に教えていただき、暑い最中に遠い山の上の墓地までご足労いただいて、先祖の墓ついをお世話

年が改まって今年はどんな年になるのだろうか。しなければならない事はと、二階の物置の片付け、古着の整理などとつまらないことばかりが頭をよぎりますが、毎年の事、思えばかりで何も成就しません。困った私です。

「歳月人を待たず」の諺どおり、そんな悠長なことしておれない。車も運転出来て元気で動ける間にしておかなければと思い始めたのが、数年前でした。

明けましておめでとうございます

芦田
早苗



梅花譜の書籍の練習問題

大般若経六百巻修復事業完成のご報告

懸案でありました大般若経六百巻の修復も終え、本年1月1・2日の大般若会には再調された木箱の香りも新しい大般若経の転読法要を行います。年頭に当たり檀信徒各家の安寧を祈願し、ご参拝の善男善女の幸せを祈る法要でもあります。

是非、ご来山賜りご隨喜(有り難さを頂戴)頂ければ幸いです。法要後にお斎(会食)について頂ける方は、事前に円覚寺(0773-27-4447)までご連絡下さい。

大般若經平成修復事業 収支報告書 (平成29年12月1日現在)		
【収入の部】		
1. 寄付金計		3,720,000円
2. 譲持会員信託一同		41,220円
収入合計		3,761,220円
【支出の部】		
1. 大般若經600巻修復		3,376,620円
2. 事前修復10巻		45,900円
3. 経典修復		6,300円
4. 十六菩薩修復		300,000円
5. 記念施本(100冊)		32,400円
支出合計		3,761,220円
収入合計 - 支出合計		0円



平成30年度の主な行持予定

- 1月 1日(月) 修证会（元始互礼会）10時・11時の2回

● 12日(火) 大般若法要（大般若經六百卷の転読祈願法要）

● 2月 15日(木) 涅槃会（お釈迦様ご命日）

● 3月 21日 (予定) 圓覺寺彼岸会（春彼岸お中日）
31日(土) 護持会決算会・予算会

● 4月 日 西国三十三ヶ所巡拝

4月29日(日) 和敬会花まつり（私市：長円寺）

5月5日(火)～9日(水) 久昌寺晋山式・授戒会

● 5月 8日 (調査中) 積尊降誕会・圓覺寺花まつり

5月22日(火)～24日(木) 梅花流全国奉詠大会（静岡市）

7月 6日(土) 中丹梅花奉詠大会（厚生会館）
7日(日) 仏教文化大講演会（厚生会館）
日 子供禪の集い（永平寺）

7月末～8月初旬 遠方懇経

7月29日 (日時調整中) 圓覺寺境内作務（役員・会員他）

8月 1日(火) 土師齋音盆供養・夜施餓鬼（施食会夜）

● 5日 (予定) 土師墓地お墓掃除（お権家一軒に一人）
6日(水) 8:15 原爆追悼平和の鐘

● 8月 8日(木) 孟蘭盆大施食会（並二、初盆大施食会）
9日(金) 繰部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面懇経
10日(土) 前田方面(早朝)・市内方面懇経
11日(日) 土師宮町区・土師新町東区懇経
12日(月) 土師新町南区懇経
13日(火) 土師町区懇経
● 14日(火) 孟蘭盆（お盆寺参り、午前中本堂開放）
16日(木) 丹波大文字送り火（注主：厚生会館）

● 8月 19日 (日時調整中) 地蔵盆（土師新町南、地蔵堂）
8月 23日 (日時調整中) 地蔵盆参り（遠方）

● 9月 23日 (予定) 圓覺寺彼岸会（秋彼岸お中日）
9月 24日 (予定) 彼岸参り（遠方）

● 11月 日 秋の西国三十三ヶ所巡拝

18日 (調査中) 土師地区出身戦没者追悼慰靈祭

● 12月 8日(土) 積尊成道会・未練年忌供養等併修
13日(木) 大すす払い

● 31日(月) 除夜の鐘・歳末懇経

- 毎月1日午前6時半 銀鍔会（朝のお勤め会、1月を除く）
- 毎月第1・3金曜日 梅花講詠歌会（日替変）
- 毎月第2・4火曜日 午前10時 寿色写経会（日替変）

■発行所

一年近く護持会の総務担当總代を努めてこられました。芦田孝文總代が体調を崩され總代を辞任せられたため、思いがけずに私、芦田充也が織物担当總代として選出されました。何分未熟者で不備も多々あろうかとは存じますが、皆様方のお力添えを戴き何とか努めてまいりたいと思つております。

さて、九月二十日には後岸法要で、鬼の博物館館長、塙見行雄様の講話を戴きました。大変有意義な講話で面白く拝聴致しました。大江町は昭和四十八年頃までは、銅鉈山として業え坑夫千人以上いた、との事ですが、往時の面影はありません。町では今觀光の目玉として、鬼酒呑童子伝説に力を入れておられます。

「時は平安時代中期、京の都を脅かす鬼がいた。その名は酒呑童子。大江山を住居とし、通力自在。勅命を受けて、鬼退治に向かったのは、武将として譽れ高い源賴光他五名」大峰修業の山伏姿になり鬼達に接近し、酒甕を壊し鬼達を油断させて正体なく醜陋しころを東切丸の名剣を抜いて鬼の胸板を突き通した。鬼の首は大江の坂に葬られ首塚明神と名付けられた。

「酒呑童子繪巻」はサントリー美術館に所蔵されているそうですが、この物語は十四世紀後半から十五世紀にかけて作られた鬼退治物語の最高傑作として日本中で語り継がれているそうです。物語は、全く架空たうですが、それを承知の上で語りと語り誰がれていることに、伝説の重みがあるよう思います。

【編集後記】

固覺寺護持會報編集部
發行所